



毎月1日 16日発行
発行所 大分市役所
編集兼発行人 田中 達夫
印刷所 K K 明文堂

身体障害者

更生巡回相談始まる

今年度第 同目の身体障害者更生相談、判定、型取り、各種診断、職のでもなく、だれでも体の悪い方
生巡回相談は、来る七日から十日 華相談、施設入所相談など、次の
までの四日間に行われ、眼科、耳 日程により実施される。
鼻咽喉科、整形外科の各専門医出 今回の巡回相談は昨年六月に行わ
席して行われ、身体障害者手帳の れた第一回の時と同様で、相談は
申請、補装具、更生医療の給付申 決して身体障害者だけに限ったも
下さい。
日程は次の通りです。

月 日	時 間	場 所	校 区
二月七日	午前九時	八幡小学校	八幡校 区
二月七日	午後二時	県身体障害者更生指導所	
二月七日	午後五時	大分市中央公民館	春日 大道校区
二月八日	午前九時	南大分小学校	金池 長浜 中島 荷揚校区
二月九日	午前二時	滝尾小学校	南大分校区
二月九日	午後五時	滝尾小学校	滝尾校区
二月十日	午前九時	日岡小学校	東大分 日岡 桃園校区

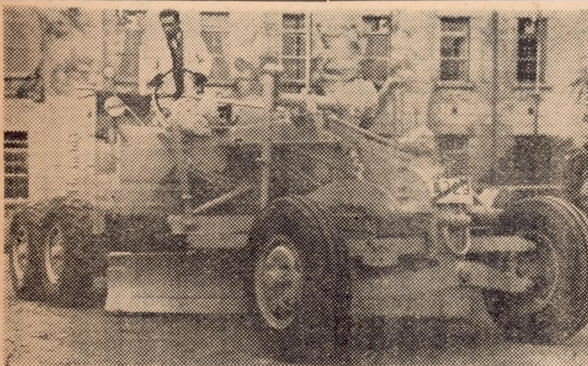
黄色い羽根の グレーザー

初旬から路面補修へ

能率百五十人分

黄色い羽根のグレーザーは、これは昨年行われた黄色い羽根の
ポンのグレーザーのもので純益五百十萬円のう
ーザー（路地、四百十萬円で購入したもの。
面補修車）しかも色も鮮やかな黄色で、際られ
期待されている。

二月分主食配給 家庭用一般配給 内地米一四日分 家庭用希望配給 内地米三日分 労務加配米 従前通り



平和の機械グレーザーの試運転

計 八幡 八〇名
春日町 二五五名
日岡 二五五名
長浜 一八〇名
大分幼稚園 二五五名
南大分 二七〇名
金池 二七〇名
東大分 二七〇名
大分幼稚園 二七〇名
滝尾 二五五名

市農務課では農業政策の円滑な 二百年前十時より、第四回調理士
運営を測るため、農業経営状況を 試験を実施します。願書提出は二
調査することになり、調査用紙は 月六日まで願書通、受験手数料
実行班長を通じ、各農家に配布致 五百円を添え大分保健所衛生課へ
します。農家の方は、月一日現在 の経営状況をくわしく記入の上、 提出下さい。
現行班長に提出下さい。班長は二 はこれと同等以上の学力を有する もので、一年以上の調理の経験者で
月十日までとりまとめの上、出張 昨年十一月実施した受験資格認定
所まで提出願います。

調理士の試験

大分保健所衛生課では、一月十 課へ御問合せ下さい。

市立幼稚園児の募集

今年もまた市立幼稚園のよい子 たちを募集致します。
・募集期間は、月十日から十九日 まで
・入園資格は昭和 十五年四月二 市立各幼稚園の定員数は次の通り
日から、昭和 十六年四月一日 大分幼稚園 一八〇名
までに生れた子供 南大分 二七〇名
・入園願書は各市立幼稚園に用意 金池 二七〇名
してあり、志願者については規 東大分 二七〇名
定に基いて身体検査と簡単な家 大分幼稚園 二七〇名
庭調査を行い、適格者のみ入園 許可します。
を許可します。また定員がオー 滝尾 二五五名

お知らせ

毎週金曜日午前八時 十分より始まる放送
より十分より始まる放送 市政だよりは、皆様
の時間です。お忘れ なくダイヤルをラジ
オ大分六〇〇キロサ イクルに、お聴し下
さい。

市議員の要更
北新町地区
財前良造氏（旧福島 清氏）
推定地区
川辺藤一氏（旧佐藤武彦氏）

保育事業研究協議會

予算の増額を要望



て別府保健館保母首 藤正子さんと優良保 母として大分市新校 町保育所保母矢野正 子さんの表彰があつ たのち、平田縣民生 労働部長の祝辞、昭 和三十一年度予算の 増、保育所経費の国 庫現金の引上げ児童 福祉の引上げ、など の要望事項をきめ、 中央に協力に働きかけ ることになった。
最後に厚生省事務官副島ハマミ さんの「保育上の実問題について」の講演があつて閉会した。
いさつに引き続き、永年勤続者とし（表彰された矢野保母さん）

農業経営状況の冬期調査

市農務課では農業政策の円滑な 二百年前十時より、第四回調理士
運営を測るため、農業経営状況を 試験を実施します。願書提出は二
調査することになり、調査用紙は 月六日まで願書通、受験手数料
実行班長を通じ、各農家に配布致 五百円を添え大分保健所衛生課へ
します。農家の方は、月一日現在 の経営状況をくわしく記入の上、 提出下さい。
現行班長に提出下さい。班長は二 はこれと同等以上の学力を有する もので、一年以上の調理の経験者で
月十日までとりまとめの上、出張 昨年十一月実施した受験資格認定
所まで提出願います。

成人の日の記念感想文

すでにお知らせ致しました通り成人の日の記念感想文は、大分大学経済学部坂本一誠君外、六名の入選者がありましたが、全員の発表は同時に出来ませんので、今回は坂本一誠君と、塩月圭子さんの二つを発表致します。

成人の日を迎えるに当って

大分市上野経済学部寮内
坂本 一誠

私達は、公認の大人になったのじやないが無惨に敗戦国とな
である。其れは私達にとつても又、途端に、私達は汽車は悠
々たるのじやないが、久しい間の待望入るもの、一片の甘
蜜を引つた日であつた。

そして私達は、既に煙草を喫つて、民衆主義のルールの下に付
たり酒を飲んだりして、卑近な点で「万民は自由平等である」
では、大人の仲間であつたその様と云う理論を教育された事等
など、傲慢さとかの現れでもあつた。振り返つて見ると、よく
さういふ「もう俺は、決して大人にはなれない」と言つた自負の
現れである。

今度成人式を迎えた私達は、戦争に育つた一群の「戦後派」とうか。私達が、育つた時代は、良
称されるグループでもある。確に意味にせよ悪い意味にせよ、私
かに私達の少年時代は、全方達に、何物かを残して行つた善な
アキ色の国防色の時代であつた。

私達は直接戦を握りしはしなかつたが、間接には戦争の中に居
たと言つていい位、影響を受け考へなければならぬ。私は、其
た。私達の記憶は、全て戦争に連れた人間の当然受けけるべき試練だ
つてゐる。而も、その記憶の一瞬とは言わぬ。何故なら、試験に
一瞬は、無意味に振るだけだ。しては余りにも苛酷であつたから
何等の統一をも与へられぬ物だ。又、其れを私達に無関係であ
かりである。或る時は爆弾の下り、責任は社会に在るのだと言
を逃げたり、日本は神の国と信じてゐない。影響されたのは私達自身

の善だからだ。

私達が、少年の眼で見たのは、社会の愚、偽善、全てが人間の
暗黒面のみであつた。多くとも、私達が見る事を欲せぬ物であつた
正當の社会であつた。少年の眼に映る社会は、少年の眼に映る
は映らぬ物であつたに違ひない。私達は、人間に對して、社会
に對して、充分に美しい夢を抱く事もなくして、世間を見てつ

社会にとつても重大な事である筈だ。煙草を口に銜え、徳利を手にし
た大人の仲間が、ぞろぞろと社会に入つて行くだけでは何の意味も
ない。常に在るべき姿を考え、何物かを求め続ける所に、青年たる
所以があるのではないだろうか。或る場合には、断絶として、大
人の列から外れなければならないのを見出そうと務めてゐるのであ

成人式を迎えるにあつて

大分市新桜町保育所(保母)
塩月 圭子

私達は、私達の失はれた少年時代を、限りなく心の片隅で懐かし
んでゐる。汚れの無い、夢の多い時代を懐懐している。決して戦争の間に、私達の若
さとか情熱が、消え去つたのでは
ない。私達は、苛烈な波に揉まれ
続け、汚れた身を任せ続けたがそ
れだけ一層美しいもの、真なるも
のを見出そうと務めてゐるのであ

「成人の日」これは私が一個の大人として人格を公的に認められ
る佳日です。怖いようでもあるが、何か飛
込んだ見たい様な衝動にもかられ
ます。それは未知の世界だけに私
にとつても大きな魅力です。何の
心の準備もない私、高等学校を卒
業し、そのまま社会に飛出して、
何一つ整理されてゐない私の環境
であるのに、胸の高なるは何か、
それは成人になる事だ。しかも私
の眼前に見えない御手が差し
伸べられてゐる様にあります。

プリムラはさくらそう科に属する低温植物で種類も非常に多く我が国の山野に自生する宿根性のものと、ヨーロッパに多く我が国で主に栽培されている種類はプリム
ラ・シネンシス、オポニコ
マ、マロコイデス、フィンブリ
アタ、グランデフロラ等、
フレム又は温室内に作られ
る。

プリムラ (櫻草)

花ことば—少年時代の希望



プリムラの鉢植(上野苗圃)

盛夏の候には日覆をして出
来るだけ涼しく、肥料は主
として油粕の液肥を薄めて時
々施す程度でよい。十一月
下旬からフレムに入れ開花
又は越冬させる。

× ×

花弁研究会の開催

一、日時 二月十一日(土)

午後一時

二、場所 上野市苗圃園

三、研究 プラの接木と春開
草花

バから移入された一、二年性
のものとなり花色も豊富であ
る。

ラ・シネンシス、オポニコ
マ、マロコイデス、フィンブリ
アタ、グランデフロラ等、
フレム又は温室内に作られ
る。

たのだ。其れは、私達の憧れでも
あるべき社会には何等の希望を
も残さぬ事を意味するものである
幻滅ではない。私達には滅すべき
夢すらもないのである。美しく、
大いなる夢を持った青年、彼等は
社会を創り、更新させて行く原
動力たるべきなのだ。

青年の夢を持たないと言ふ事は
ける何物かがあると言ふ事なのだ

私達は、失なれた時代を求め
つつ一歩、一歩、再び少年の様
に純潔な眼で物を見、進んで行
く。それが、私達の真の成人を意
味するに至るまで。

次に「私達の職場の幸福とは何
によつて得られるか、それは総て
「和」の一字に盡きるのである

「成人の日」これは私が一個の大人として人格を公的に認められ
る佳日です。怖いようでもあるが、何か飛
込んだ見たい様な衝動にもかられ
ます。それは未知の世界だけに私
にとつても大きな魅力です。何の
心の準備もない私、高等学校を卒
業し、そのまま社会に飛出して、
何一つ整理されてゐない私の環境
であるのに、胸の高なるは何か、
それは成人になる事だ。しかも私
の眼前に見えない御手が差し
伸べられてゐる様にあります。

よく戦後、私達の行動性を称し
アフレだとか、戦後派だとか愛
な代名詞と呼ばれて来ましたが、
当初悪い反面のみを表現したこの
言葉も、最近になつてより面に多
く使われる様になつたことは、私
達が清純な気持でこの社会に生き
て来た事、そして真面目さを失わ
なかつたという事が大きな原因で
あつたのではないだろうか。

子供より大人へ……何んだか急
に大きくなつた様で感慨無量です
私達は、一票の権利が与えられたと
共に、この一票一票をしっかりと
握りしめて、政治というものに理
屈としてでなく、生活の問題とし
て「ツカ」に「ハダ」に感じ、私
の理想である美しい清純な民主主
義社会を築くべく、公民として成
長したいと思ひます。